

教わったように教えるな

校長 宮本 順紀

新型コロナウイルスによる影響による休校措置など前例のない様々なことに関して、生徒、保護者の皆さまにはご理解とご協力を賜り大変感謝しております。今後も、この影響は続くことと思います。その対応につきましては、さらなるご協力をお願いいたします。

さて、令和元年度の最後の学校だよりになりますが、新型コロナウイルス関係の話から少し視点を変えて文章を書いてみました。県内の英語教員の研究団体として茨城県高等学校教育研究会英語部というのがあります。新型コロナウイルスの影響が出る前のことですが、教員研修会が行われ、語学教育研究所長で武蔵野大学教授の小菅和也先生からご指導いただきました。講師の小菅先生と雑談をしていて、2002年に70歳で亡くなられた若林俊輔先生の話がでました。若林先生はもともと東京都の区立中学校の先生でした。いくつかの職をへて、東京学芸大学や東京外国語大学で教鞭をとられました。私が教員になった時には、すでに英語教師の間では、「若林俊輔を知らないのはモグリである。」と言われていたくらいです。妥協することなく英語教育に取り組んでいる方でした。たくさんの著作があり、4年前に、さまざまな英語教育の専門誌に掲載された著作が、『英語は「教わったように教えるな』』という本にまとめられました。その本に入りきれなかった著作物を語学教育研究所が2冊の本にまとめて出版しました。その本を読んでいるところです。

若林先生の「教わったように教えるな」という一言は英語教師として経験を重ねる上で、もっとも大切にしたい言葉となっています。多くの教員は自分が小学校、中学校、高等学校、大学と学んでいく中で、教えていただいた先生の教え方を基本にして教員としての道をスタートします。私が中学校、高校で指導を受けた先生方は素晴らしい方ばかりで、迷いながらも最終的に英語の教員になったのもその先生方のおかげです。しかし、「教わったように教えるな」というのは時代の変化や学問の変化にはついていけないし、そもそも生徒に対してとても失礼なことだと思います。過去の積み重ねを乗り越えて新しいものを創出していかないといけないと思います。

今読んでいる若林先生の著作の中に、助動詞 will の話題が書かれていました。以前は、未来時制という言葉が平気で使われていました。今は英語の時制は現在時制と過去時制の二つというのが一般的です。will を使う表現を未来形と言い、would が will の過去形だと出てきた瞬間、未来の過去は現在じゃないかと思議に思ったことを思い出しました。未来を表すのに will を使うことがありますが、will は現在時制を持つ助動詞で、あえて～形という言葉を使うなら現在形です。would は will の過去時制を持つ過去形で、事実や現実との距離感を表せる助動詞です。だから仮定法に使われますし、距離感が表せるので丁寧表現としても使われます。私が昔学んだ英文法は体系的のようで、例外やこじつけだらけだったので。教員になり、いろいろ勉強して考え方をアップデートしながら授業を工夫していったことを思い出します。しかし、若林先生の著作から学ぶことはまだまだ多くあり、勉強が足りないなと深く感じているところです。

現在大問題になっている新型コロナウイルスについてはわからないことばかりです。これまで経験したことのない状況になっています。ですから、不安になる。「教わったように」というその部分自体が欠落している事態になっているのが今です。私もしっかり学ばないとダメだと思っています。



卒業証書授与式が行われました



3月1日(日)、本校体育館で令和元年度卒業証書授与式が行われました。今年は新型コロナウイルスの影響により、在校生の出席が見送られ、式の進行も簡素化された中での実施となりました。保護者が見守る中、卒業生は立派な態度で式に臨み、宮本校長から150名に卒業証書が授与されました。式辞のなかで、宮本校長は社会情勢に適応できる人間に成長してほしいと生徒を激励しました。

齋藤生徒会長による送辞は放送により行われ、先輩たちとの思い出を語り、名残を惜しみました。答辞では、前生徒会長の石塚さんが母校に感謝の気持ちを述べるとともに卒業生の今後の活躍を誓い、後輩にこれからの竜ヶ崎二高を託しました。

教職員一同、卒業生のそれぞれの進路での活躍を祈念しています。なお、式は、普通科が昭和23年に新制高校に移行して以来72回、商業科は69回、人間文化科は学科改編後14回を数えました。



2年生で礼法・作法の授業が行われました



2月19日(水)、26日(水)にかけて、2年生が礼法・作法の授業を行いました。各クラス2時間かけて人間文化科の着付けの講座を担当いただいている加藤先生を4名の講師の方々からご指導を受けました。挨拶の仕方や風呂敷の使い方など、伝統的な振る舞いを学ぶことで、日頃あまり気にすることのない動作の大切さを学ぶ良い機会となりました。



関東鉄道竜ヶ崎線の歴史を探る展示会が歴史民俗資料館で開催されました



2月22日(土)から、3年生有志取り組んだ『竜鉄』の歴史を探る展示会が龍ヶ崎歴史民俗資料館で行われました。生徒たちが撮影した竜ヶ崎駅、入地駅、佐貫駅の風景と過去に「竜鉄」を訪れた方々の回想文や雑誌の復刻などで今と昔を比較できる内容となっています。冊子の無料配布を行った初日には多くの人々が訪れました。なお、新型コロナウイルスの影響により現在展示は中止されていますが、後日再開する予定です。その際には足をお運びいただくと幸いです。活動は、「常陽リビング」、「茨城新聞」に取り上げられました。



家庭クラブの生徒が龍ヶ崎市主催の「市民活動フェア」に参加しました



2月23日(水)、学校家庭クラブの生徒4名が、龍ヶ崎市主催の市民活動フェアにおいて、学校家庭クラブのこれまでの研究・活動報告を行いました。龍ヶ崎市商工会が運営する「どらすて」との交流や横田農場の田んぼの学校での取り組みなどを、パワーポイントを使って説明しました。また、ラオスに贈る絵本を拡大した絵本を展示しました。学校家庭クラブは、地域でさまざまな取り組みを行っています。応援よろしくお願いたします。

----- 4月の行事日程 -----

- 6日(月) 始業式
- 7日(火) 入学式(生徒家庭学習)
- 8日(水) 進路マップ、対面式
- 9日(木) 部活動紹介 ※特編授業
- 10日(金) 離任式 ※特編授業